

## コラム「ブラジルの素顔」

号外！  
大統領選挙、決選投票へ！！今後のブラジルは？

2018年10月

ブラジル三井住友銀行 加藤 巖

### 第五回テーマ 「号外：ブラジル大統領選挙の一次投票」

今回はブラジル大統領選挙を受けての事業戦略や地域戦略の考え方のヒントを述べたいと思います。

当コラム第4号(6月リリース)で「政治はどうか？次期ブラジル大統領は？」というテーマで書いていますが、以下に一部を抜粋します。

=====

日系企業の幹部の方々や皆様からの「2018年ブラジル大統領選挙の行方はどのように考えますか？」というご質問には次のように答えています。

誰が当選しても開放経済は継続するだろうから基本的には安心。仮に過激な国粋主義の候補者や極端な平等主義者或いは独裁型候補者が出現しても問題は無い。なぜなら彼等が最終的に当選する確率は低いから。ただし万が一この人たちの弁論力が優秀で、かつ潤沢な資金を有しているという2つの要素が噛み合ってしまう場合は、大半の国民が騙される可能性があり、危険。ブラジルはかつてと同様に大きく足踏みをする時代に陥ってしまう可能性も確率的にはかなり低いですが、ゼロではない。

=====

10月7日の一次投票の結果、決選投票(10月28日)へコマを進めることになったのはボルソナーロとアダジでした。一次投票直後の決選投票の予想ではボルソナーロ優勢ということですが、果たしてどうなるのか・・・。

何れにしても、今後この大国の大統領としてどちらかの候補者が政策運営を進めていくこととなります。我々はビジネス環境を見つめ、進め、確保する必要があります。そこで決選投票へ進む最終候補の2人の公約を比較してみると、実は案外似ている部分も多いと推測することもできるのです。例えば表面上は正反対の公約に見えても、です。

したがって結論を申し上げますと「何かをするのであれば、その時がチャンス」ということです。何故ならいくら待っていても、恐らく暫くの間、ブラジルには劇的な変化は起きず、でも「遅々として、安定的に進みます」から。

候補 政党・種別	ボルソナーロ Bolsonaro 63歳 PSL 自由社会党 / 極右	アダジ Haddad 55歳 PT 労働者党 / 極左
支持率	1位	2位
政治経験	下院議員	サンパウロ市長、教育相
主な支持層	若者、男性、軍、高学歴層、中間～富裕層	低所得者層～一般大衆層
特徴	ブラジルのトランプ大統領と呼ばれる。女性蔑視や人種差別、国連脱退宣言等過激な発言が多い、もと陸軍大尉。	収監中のルーラ前大統領が候補だった時の副大統領候補。約40%近かったルーラ支持票を急激に取り込んでいる。
	政治活動・選挙戦にはSNSを多用。	ルーラ前大統領と違い貧困層出身ではない。
	選挙活動中に暴漢に襲われ負傷。同情票が集まっているが体力が心配。まだ入院中。	ルーラ前大統領の政策踏襲をアピール。
弱点	出身政党が弱小で政権運営が困難か。まだ何も決まっていないが連立政権は必至。	先々週迄は支持率が1桁台。現在支持率上昇中。真の意味での認知度は低い。
	「改革」のイメージから人気もあるが、それ以上の暴言からくる反対派が多い。	最大の選挙民を有するブラジル北東部での認知度がまだ低い。

#### 加藤 巖(かとう いわお)

1987年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。同年住友銀行(現三井住友銀行)入行。  
89-90年ブラジル業務研修生(Minas Gerais 州立カトリック大学聴講生)、東京営業部、  
国際審査部、JCIF 国際金融情報センター出向、ブラジル住友銀行(現ブラジル三井住友銀行)、  
グローバル・アドバイザー一部等を経て、2016年9月からブラジル勤務。  
中学・高校時代にサンパウロのInternational Schoolに通っていた時代を含め4度目のブラジル経験。

「中南米における自国通貨のドル化の背景とその実効性/アルゼンチン」(JCIF/大蔵省委託調査)、  
「変動する世界の金融・資本市場(アルゼンチン)」(金融財政事情研究会)、  
「日本企業がブラジルと上手に付き合うために必要なこと」(日本ブラジル中央協会)、  
「新ブラジル事典/第4章:金融業」(ブラジル日本商工会議所編)、等の執筆多数。  
「特集ブラジル経済と不動産市場の行方」(AREAS 不動産証券化ジャーナル/2016年31号)対談、  
日本機械輸出組合主催「ブラジル進出支援セミナー」、播磨国際協議会主催「ブラジル経済情勢」、  
上田市3商工団体共催「海外展開セミナー」等の銀行外部セミナー講師も多数。